

平成30年9月28日

各小学校長・PTA会長 様

地島校区漁村留学を育てる会
 会長 前田 浩昌
 宗像市立地島小学校
 校長 内 洋 一

平成31年度（第17期）漁村留学生募集のご案内

秋冷の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、地島校区漁村留学を育てる会は、平成15年度から漁村留学制度を実施しており、本年度第16期生までに、延べ88名の留学生を迎え入れることができました。

このたび、宗像市・宗像市教育委員会の支援のもと、平成31年度第17期留学生募集を下記のとおり実施することになりましたのでお知らせします。

つきましては、同封の募集案内を校内に掲示していただくとともに、募集案内をコピーし、該当する学年の児童（現3年生・4年生・5年生）に配付していただければ幸いに存じます。お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い致します。

また、「昨年度留学生保護者・児童・地域の感想」や「なぎさ通信」を参考資料として同封しておりますのでご活用ください。

記

- 1 対象学年 平成31年度の4年生・5年生・6年生の男女児童（全員で5～6名程度）
- 2 受入条件 ① 体験を通して自立性を養おうとする健康な児童であること
② 児童・保護者の双方が漁村留学の趣旨をよく理解し、熱意があること
- 3 留学期間 1ヶ年（平成31年4月1日～平成32年3月31日）
- 4 費用 生活費として毎月4万円程度、他に各学期3万5千円程度（学校教材・給食費、医療費、お小遣い等）
- 5 募集期間 平成30年10月1日（月）～平成30年12月21日（金）
- 6 説明会 平成31年1月12日（土）予定 *会場 宗像市立地島小学校
- 7 過去の実績（受入人数）

期	年度（平成）	受入人数（男/女）	出身市町（人数）
1	15	5名（男2 女3）	宗像市3 北九州市1 春日市1
2	16	6名（男4 女2）	宗像市1 北九州市1 福岡市2 古賀市2
3	17	6名（男3 女3）	宗像市2 北九州市1 福岡市2 春日市1
4	18	6名（男4 女2）	宗像市2 北九州市1 福岡市2 大野城市1
5	19	7名（男5 女2）	宗像市2 北九州市1 福岡市1 古賀市1 田川市1 黒木町1
6	20	6名（男4 女2）	宗像市2 福岡市2 うきは市1 みやま市1
7	21	6名（男4 女2）	宗像市2 北九州市1 須恵町1 志免町1 うきは市1
8	22	5名（男2 女3）	宗像市2 福岡市1 朝倉市1 志免町1
9	23	5名（男3 女2）	宗像市3 北九州市1 福岡市1
10	24	6名（男4 女2）	宗像市3 直方市1 福岡市2
11	25	5名（男2 女3）	宗像市2 福津市1 みやま市1 千葉県1
12	26	5名（男2 女3）	宗像市2 福津市1 福岡市1 大野城市1
13	27	5名（男3 女2）	宗像市1 福津市1 福岡市2 鞍手町1
14	28	5名（男3 女2）	宗像市1 北九州市1 朝倉市1 岡垣町1 熊本県1
15	29	5名（男2 女3）	宗像市2 福津市2 福岡市1
16	30	5名（男3 女2）	宗像市1 福岡市3 大分県1

8 応募・問い合わせ先等

「地島校区漁村留学を育てる会」事務局（なぎさの家）

TEL・FAX 0940-62-3394

* 留守の場合・昼間 地島小学校（教頭まで） TEL:0940-62-1171 FAX:0940-62-1911

※ 連絡・受付後、資料を郵送、または、FAXいたします。

地域を代表して

第15期 漁村留学実行委員長 立石 智

地島漁村留学も16年目を迎え、今年も5人の留学生在が島外から来ました。4月から留学が始まり、早いもので半年が経ちました。子どもたちも寮や学校での生活にも慣れ、地域や学校の行事、山笠、地引網、運動会等、積極的に参加し頑張っています。

初めて島に来た時は、不安でいっぱいの子も、指導員の先生や学校の先生方のご指導の元、地域の方の協力や支えがあり、現在は、元気に地島での生活を楽しみ、誰にでも挨拶のできるたくましい子へと日々成長しています。

ここで、漁村留学を終えた卒業生からのお礼の手紙の一部を紹介します。
『地島で生活をしてみて、自分が沢山の人の支えられているのだということがよくわかりました。初めは大変だったけれど、だんだん慣れてとても楽しい一年間を過ごすことが出来ました。私にとって一年間過ごした地島での経験は一生の宝物です』

このようなお礼の手紙をもらうと、関係者一同、心から嬉しく、これからも留学制度を長く続けていこうという思いになります。
最後に漁村留学を考えておられますご家族の皆様。親元を離れる一年間は本当に心配だと思いますが、ぜひお子様に漁村留学をさせてみてはいかがでしょうか。

関係者一同、心よりお待ちしております。



地島漁村留学を体験して

第15期漁村留学生 4年（当時）

地島には、自然がたくさんあります。僕たちが生活をするなぎさの家の目の前には、海があります。海の中で魚が泳いでいるのが見えます。反対側には山があります。僕たちは、小学校に行くとき山のほうに歩いていくのですが、通学路には、港側にたくさんの猫を、山間に鳥や蝶を見ながら行きました。1月から3月ごろには、椿がたくさん咲きます。約1700本が一斉に咲くのでとてもきれいです。また、島の行事や学校行事がたくさんあったので、いつも楽しく生活することができました。

今回は僕が印象に残ったこと3つを紹介します。一つ目は、10月に行われる、みあれ祭です。この日は、地島の小学生は特別に漁船に乗せてもらいました。たくさんの漁船が行きかうのもものすごく迫力がありました。二つ目は、2月に行われる学校の文化祭です。文化祭では劇や歌のほかに児童一人一人の発表があります。ピアノ・縄跳び・体操など特技や挑戦したいものを自分で決めて発表します。僕は先生に勧められてジャグリングに挑戦しました。夏休みから練習を始めて、一生懸命取り組んで出来るようになったときは、とてもうれしかったです。三つ目は、3月に行われる椿まつりです。三線やソーラン節の発表があります。学校で島を紹介するパンフレットを作り、当日渡船場で手渡したり、コースターや写真立てを手作りして販売しました。椿まつりを通して、島外の方とふれ合うことができました。このような楽しい行事に参加できるのは、会長さんをはじめ、島の方々のおかげです。

この他にも、地島の漁村留学は、楽しいことがたくさんあるので、ぜひ参加してもらいたいです。

地島留学を終えて

第15期漁村留学生保護者

我が家の地島の漁村留学は2人目でした。長男を留学させた経験があったので、今回も安心して留学させました。というのは、島のみなさんが留学生を温かく見守ってくれているからです。息子も兄の留学を見ていたので、低学年の頃から4年生になったら地島に行くつもりで過ごしてきました。そして、4年生になるのを楽しみにしていました。面接のときは、緊張して何も言えなかった息子ですが、幸いにして何とか留学できることになりました。

島では、漁村留学を育てる会の会長さんをはじめ、指導員の先生、寮母さん等のおかげで、櫓漕ぎ体験やみあれ祭への参加、全島運動会、つばき祭りなど、いろいろな体験をさせていただき、楽しく過ごすことができました。

地島小学校は児童数が少なく、全校生徒10名、そのうち留学生が5名でした。

授業は、1・2年生、3・4年生、5・6年生と一緒に受ける複式です。小さい学校だと学習面を心配される方もいらっしゃると思いますが、先生一人に児童は数名ですので、目が行き届きます。学校や島の行事についても活躍の場が多く、親としては楽しませてもらいました。また、少人数ならではの丁寧な指導をして頂き、活動の出来栄も立派なものでした。地島小学校では、運動会での一輪車、文化祭での三線など、島独自の特徴的な取り組みを進めていますが、初体験の留学生もみんな上手になります。

大人目から見ても羨ましい留学生活ですが、日常の生活は厳しいところもあります。ゲーム、漫画の持ち込みは出来ません。テレビの視聴時間も制限があります。また、自分のことは自分ですることが約束なので、実家での生活と比較すると自分を律して生活したことと思います。冬場でも、食器洗いや靴洗いなどをして、手荒れが続いていましたが、手荒れがかわいそうという気持ちよりも、子供なりに島での生活をがんばっているのだなと思うと同時に、息子の成長を感じました。留学生の友達とは、毎日の寝食を共にして仲良く過ごせたようで、次第にそれぞれの個性も見えてきて、帰省や島の行事で会うのが楽しみになりました。留学を終えた今でも連絡を取り合い、みんなで島の行事に参加しています。これからも行事に参加させてもらい、地島を楽しませてもらおうと思っています。留学生や島の子供たちの今後の成長を楽しみにしています。留学を迷っている親御さんも、ぜひ子どもたちの地島での成長する姿を島の方と一緒に見守りながら、楽しみにしてもらいたいと思います。

私たち家族にとって、地島は第二の故郷です。お世話になった皆様には本当の感謝しております。ありがとうございました。

なぎぎと通信

2018年
10月

地島校区漁村留学制度

平成一五年度から漁村留学制度が始まり、今年で一六年度を迎えることとなりました。漁村留学では、毎年、五、六名の留学生を受け入れ、漁村留学センター「なぎぎの家」で指導員や寮母さんと共に一年間過ごし、集団生活を通して、子ども達の基本的な生活習慣や規律、助け合う心、自立心など今後社会に必要な人格の形成を目指しています。今までにたくさんの子どもたちが漁村留学を卒業し、その多くが今でも夏休みや行事の際に島へ遊びに来くる等、交流が続いています。

漁村留学第十六期生の半年

指導員 竹井ゆかり

今年、五年生四名、四年生一名の計五名（男子三名、女子二名）と指導員がなぎぎの家で共同生活を送っています。この半年間、留学生たちは、慣れない場所での生活で不安も多かったと思いますが、様々な体験を通して、地域の方や家族等たくさんの方に支えられながら、自分自身と向き合い、それぞれが日々たくましく成長しているように感じます。これからも感謝の気持ちを忘れずに、互いに協力し合い、残りの留学生生活を大切に過ごしてもらいたいと思います。

楽しい留学生生活

イカ釣り体験

七月、漁師さんの船に乗せてもらい、夜のイカ釣りへ出かけました。地元の漁師さんに教えてもらいながら、イカの釣り方や、イカについてたくさん学ぶことができ、みんなとても喜んでいました。釣ったイカは、みんなで分けて、お家に持って帰りました。



ホームステイ

年に数回ホームステイがあり、留学生だけでなく地島の方のお家へ泊まらせてもらいます。

ホームステイ先では、お手伝いやお話をしたり、様々なことを教えてもらったりしながら、交流を深めています。普段はゆっくり話す機会がなかなかないので、子どもたちも毎回楽しみにしており、留学生のことを知ってもらおうとて、



地島山笠

毎年七月十五日、地島では、伝統行事の一つである、地島山笠が行われます。子どもたちは島のお父さんと山車の綱を引き、「わっしょい！わっしょい！」という掛け声とともに、島内を一生けん命に駆け回ります。周りの人も「がんばれ！」と笑顔で応援してくれます。地域の方々と一緒に、声を掛け合いながら、汗水を流し、とても貴重な体験をさせてもらいました。



全島大運動会

九月二十二日、全島大運動会が行われました。地島小学校の運動会は、島全体で行われるため、子どもも大人まで、楽しんで参加することができます。小学生は一輪車やソーラン節など、この日のために一学期からたくさん練習をします。特に一輪車は、初めは乗れない子もいましたが、日々練習を重ね、本番では上手に乗ることが出来ました。子ども達の成長を感じることが出来る素晴らしい運動会となりました。

